

『創作 労働問題』目次

- 石炭焚
- 赤毛の子
- 孝行
- 金貨の音
- 死
- 御主人様
- 工場法
- 暴風雨の前
- 牢から出た男
- 一人と千三百人

千九百十九  
年日本に此  
の藝術は生  
れたり

創作 労働問題

石炭焚

平澤紫魂

【ま】「一生懸命働いて下さい、後々は相當の事は出来ますからね。」と云つた大旦那の言葉が吉岡はいつ迄も忘れずにある。大旦那に身體をすっかり任せて置けば自分達一家の一生は全く安心のものであると固く信じて、其ついで工場で働けるだけ、大旦那と云ふは梅毒病者であるが頗る機略に富んだ廣つ玉の大きい、身體も顔も

関連図書(復刻版)のご案内

宮嶋資夫 著

坑夫

一九二六年刊(発禁)  
四六判・並製・函入り 二〇〇頁  
二、〇〇〇円十税  
解説Ⅱ西田勝△一九九二年復刻  
日本におけるプロレタリア文学の先駆的作品。  
序文Ⅱ堺利彦・大杉栄

田岡嶺雲 著

病中放浪

一九二〇年刊(発禁)  
四六判・並製・函入り 二五〇頁  
三、五〇〇円十税  
解説Ⅱ西田勝△二〇〇〇年復刻  
ISBN4-938303-13-2  
田岡嶺雲生誕二二〇年記念。  
最後の著作集。

田岡嶺雲・小川芋銭 著

有聲無聲

一九〇八年刊  
四六判・並製・函入り 一五八頁  
二、〇〇〇円十税  
解説Ⅱ西田勝△二〇〇〇年復刻  
ISBN4-938303-14-0  
田岡嶺雲と小川芋銭共著の幻の画文集。

●表示価格は、全て税別。

不二出版

〒一三三〇〇三三  
東京都文京区向丘 一―二―二  
電話〇三三―八二―四四三三  
フクシミリ〇三三―八二―四四六四  
振替〇〇一六〇―二九四〇八四

亀戸事件虐殺から八〇年。労働者文学作家・平沢計七の真骨頂を示す著作集！

平沢計七 著

創作 労働問題

一九一九年刊  
四六判・並製・函入り 二八八頁  
六、〇〇〇円十税 ISBN4-8350-3121-0  
解説Ⅱ西田勝△二〇〇三年復刻  
社会文学叢書へ復刻版(8)



発行Ⅱ西田勝・平和研究室

不二出版

刊行にあたって

今年は関東大震災の混乱のさなか、平沢計七が軍警の手によって殺されてから八〇周年に当たります。彼は、治安維持法の前身である「過激社会運動取締法案」阻止のため思想や立場を超えた、全国規模の労働組合の共闘組織を創り上げて、それを廃案に追い込んだり、首都圏で初めて生活協同組合や労働金庫を建ち上げたりした、労働運動の天才的な指導者でした。一方、多芸の人で、小説や戯曲も書き、また劇団を組織し、自らも俳優となり自作を上演しました。

『創作 労働問題』は、その彼の生前唯一の小説戯曲集です。ここに収められている作品は、時代背景こそ八〇年前ですが、リストラや過労働、環境公害や贈賄などを取り上げていて現在のです。同時にそこには、人間に対する限らない愛と、人間の生き方に対する根源的な問いかけが脈打ち、労働者の次元を越えて私たちに強く迫るものがあります。

彼が、この本の序で「彼は間違つて彼の愛してゐる祖国の手で打碎かる、か、間違つて彼の愛してゐる民衆の手で打碎かる、か、どつちにしても愉快な死様をする男である」と書いていることも心を強く打つものがあります。

二〇〇三年秋

西田勝・平和研究室

## 御主人様

お月様がまん丸く西瓜のやうに出てゐたこと、鎮守の森からお化けが出さうであつたこと、母親が自分をしっかりと抱きしめて、涙の一ぱいたまつた眼で自分を見た事を織ッ子見習のお菊ははつきり覚えてゐる。母親の泣いたのは別れが悲しいからだとわかつてゐたが、其時五圓の金で機織工場へ身を賣られたのだと云ふ事は、わからう筈も無かつた。母親がぼろ／＼泣きながら、

「御主人様の云ふ事は何でもよく聞くんだよ、御主人様の云ふ事は何でもよく聞くんだよ。」と云つた言葉は何故か一番強く心に沁み込んで忘れられない。其言葉を思ひ出す度には又母親の泣顔が必然眼の前に現はれた。母親と別れた時には什麼したわけか涙一滴眼に出なかつたが、其言葉と其顔とを思ひ出す時には涙が自然とにじみ出た。

四七

●内容見本

●弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください

●発行所

# 不二出版

〒113 0023 東京都文京区向丘1-2-12  
TEL 03-3812-4433  
FAX 03-3812-4464

注文カード

帖合・貴店名

冊数

冊

不二出版

著者名

様

摘要

書名

円+税

年 月 日注文

住所氏名